

般公衆乃至患者各個人ノ公娼ト私娼トニ接スル頻度ニ依リテ決スル問題ナルカ故ニ此表ニ依テ強チ公娼ニ危險ノ度カ多イト云フコトヲ得ス。危險度ノ多キコトハ花柳病患者多ク而シテ比較的重症ニアル私娼カ最テアルト云ハサルヘカラス。此花柳病感染源調査ニ依テ花柳病ハ公娼ヨリ感染スル人員カ多イト云フコトハ云ヒ得ルナリ。乍併此ニ注意スヘキコトハ各患者ノ陳述ニ如何ナル程度迄信ヲ置キ得ルカニシテ已述ノ検診成績ニ於テ公娼ノ花柳病ハ他ノ賣笑婦ニ比シ少ク又次ニ述フル。公娼ト花柳病蔓延トノ關係ニ於テハ特ニ公娼ヲ花柳病ノ傳播者ナリト見做シ難キ矛盾ノ結果ヲ示シタリ其真相果シテ如何併シナカラ他面ニ於テハ遊廓ノ設置ハ淫行ノ場所ヲ公示シ青年ヲ誘致スルノ傾アルヘク從テ感染ノ機會多カルヘシトモ言ヒ得ヘシ。

五四、花柳病感染源調

日本ニテ公娼ヨリスル感染者多シト云ヘルコトハ獨逸アタリト異ルモ其レハ日本ニハ公娼數多數ニシテ私娼ノ取締リハ或ル部分的ノ例ヲ除キテハ比較的嚴重ナルヲ以テナリ、若シモ外國ノ如ク公娼ノ數少ナカリセハ日本ニテモ私娼ヨリノ感染多クナルヲ見ルヘシ群馬縣ノ例之ヲ立證シテ居ル斯ル事ハ其時ト地方ノ事情ノ變化ニ依ツテ公私娼ノ間ニ推移循環スルニ依ルヘタ、客ニ接スル機會ノ多少ニ依ルコトカ感染者數ニ變化ヲ來ス若シ日本ノ私娼取締ヲ一層寛ニシ公娼ノ數ヲ減ゼシメナバ私娼ヨリノ感染率ハ公娼ノ比ニテラサルヘシトモ云ヒ得ヘシ。（第三編第二章第四節群馬縣下壯丁花柳病傳染系

大正十四年一月二十日ヨリ二月二十日ニ至ル間ニ於テ横須賀海兵團ニ發生セル花柳病患者五十二名及同年三月一日横須賀海軍病院在院花柳病患者六十二名ノ感染源ヲ某氏ニ依リ調査セル成績ハ娼妓ヨリ感染セル者六十八名ニシテ全數ノ五九、六%ニ當リ同地方ノ私娼ヨリ感染セル者三十四名ニ九、八%

ニシテ其他ハ藝妓ヨリ感染セル者三名酌婦ヨリ六名其他ヨリ二名ニシテ即チ全數ノ約六〇・〇%ハ娼妓ヨリ感染シ藝妓及酌婦ヲ合シタル私娼ヨリノ感染約三六、〇%ナリキ以上ノ成績ニ依ルトキハ花柳病ノ過半數ハ公娼ヨリ感染セルモノト見ルヲ得ヘキモ主トシテ或階級（例ハ壯丁、兵士等）ノ調査又ハ一地方ノ事實ノミニ依リテ全般ノ花柳病ヲ律スルハ正鵠ヲ誤ル虞アルヲ以テ更ニ一層調査ヲ期シ併セテ諸賢ノ高教ヲ仰カムトス。

五五、自大正十四年一月二十日至大正十四年三月一日横須賀海兵團花柳病感染源調査表

媒介	感 染 數	患 者 數	總數ニ對スル百分比			
			娼 妓	藝 妓	私 酌	其 他
計			六八	三四	二、六	五九・六
			一一四	三	二九・八	五・二
				六	二、六	一

## 第二節 公娼ト花柳病蔓延トノ關係

### 一、公娼ノ有無ニ依ル壯丁花柳病ノ比較

更ニ他ノ方面ヨリ公娼ト花柳病傳播トノ關係ヲ知ラムカタメ大正元年ヨリ十三年ニ至ル全國壯丁ヲ公娼アル郡市ト無キ郡市トニ分チ其花柳病ノ多少ヲ比較スルニ左表ノ如ク公娼アル地ニ於ケル花柳病ハ二、二〇%公娼無キ地方ニ於ケル花柳病ハ一、九八%ニシテ公娼アル地方花柳病多キカ如シ（卷末附錄第十表十一表十二表十三表參照）

### 五六、公娼ノ有無ニ依ル壯丁花柳病ノ比較

公娼有無別	檢 查 壯 丁 數	花 柳 痘 患 者 數	同 平 分 比
有 ル 郡 市	二二七一、七五三	四九、九七二	二三・〇
無 キ 郡 市	二〇二二、七三六	三九、八一九	一九・八

サレト公娼アル地方ハ多クハ市街地ニシテ壯丁花柳病ノ多キ原因ハ單ニ公娼ニノミ歸スヘキヤ其他ノ影響ニ左右セラルルモノニアラサルヤ探究ヲ要スル問題ナレハ之ヲ市部ト郡部トニ分チ又公娼有ル市ト無キ市、公娼アル郡ト無キ郡トヲ比較觀察スルニ左ノ諸表ニ示スカ如ク公娼ノ有無ニ係ラス市部ハ郡部ニ比シ壯丁花柳病五割強多ク又公娼有ル市ト無キ市ヲ比較スルニ無キ市ハ患者三一、九%有ル市ハ三〇、六%ニシテ公娼無キ市ニ却テ花柳病多キ奇現像ヲ示セリ又郡部ニ於テハ公娼アル郡二〇、〇%無キ郡一九、六%殆ント大差ナシト云フヲ得ヘク之レニ依テ見ルトキハ特ニ公娼カ花柳病ノ傳播者トハ云ヒ難キカ如ク前掲花柳病ノ感染源調査ノ成績ニ反スルカ如シ。

五七、市部ト郡部トニ依ル全國壯丁花柳病

區別	檢査壯丁數	花柳病患者數	同千分比
市部	四五二、四一〇	二三、八九九	三〇、七
郡部	三八三二、〇七九	七五、八九一	一九、八

五八、公娼ノ有ル市ト無キ市トノ比較

區別	檢査壯丁數	花柳病患者數	同千分比
有ル市	四二一、一三八	二二、九〇〇	三〇、六
無キ市	三一、二七二	九九九	三一、九

五九、公娼ノ有ル郡ト無キ郡トノ比較

區別	檢査壯丁數	花柳病患者數	同千分比
有ル郡	一八五〇、六一五	三七、〇七一	二〇、〇
無キ郡	一九八一、四六四	三八、八二〇	一九、六

長野縣下ノ例

明治三十六年ヨリ三十八年迄ノ長野縣ノ壯丁ニ付調査セルモノニヨレハ妓樓ノ設ケアル郡市ノ花柳病ハ六、九%妓樓ノ設ケ無キ郡市ノ花柳病ハ七、二%ニシテ妓樓ノ設ケ無キ方却テ多キ現像ヲ呈セリ。

六〇、至明治三十八年長野縣壯丁花柳病ノ妓樓有無別比較

區別	檢査壯丁數	花柳病患者數	同千分比
妓樓有ル郡市	一六、九六三	一一七	六、九
同無キ郡	一四、九八七	一〇九	七、二

二、妓樓ノ有無ニ依ル一般人ノ花柳病

妓樓ノ有無ニ依ル一般人ノ花柳病ニ就テハ調査材料乏シキモ新潟縣及埼玉縣ノ古キ例ヲ舉クレハ新潟縣ノ明治三十三年ヨリ三十七年迄ノ妓樓アル郡市ニ於ケル人口ニ對スル花柳病患者ノ千分比ハ二、七六%妓樓ナキ郡部ニ於ケル花柳病ハ八、九七%ナリ埼玉縣ニ於ケル同年間ノ調査ニ依レハ妓樓ノ設ケアル郡部ノ患者二、六五%妓樓ナキ郡部ニ於テハ三、六五%ニシテ兩者反対ノ比ヲ現セリ。

六一、妓樓ノ有無ニ依ル一般人花柳病表

區別	妓樓有無別	人 口	花柳病患者	人口千ニ對スル花柳病患者
自明治三十三年至明治三十七年	有	一二三、二九六	二四、六五三	二一、七六
同年間	無	一、〇三六、四九四	二四、〇九四	八、九七
埼玉縣	有	一、四、九二八、九九二	一四、三三四	二、六五

七四

龜田威夫氏ノ報告ニ依レハ同氏カ横濱市ニ於テ診療セルニ千人ノ花柳病患者ニ就キ調査セル處ニ依レハ  
淋病ハ公娼ヨリ二五  
私娼ヨリ七五  
黴毒ハ公娼ヨリ七〇  
私娼ヨリ三〇  
軟性下疳ハ公娼モ私娼モ同様ナリシト云フ之ヲ以テ見ルトキハ平均ニ於テ私娼ヨリスルモノ約十%  
多キカ如シ。

### 第三節 各府縣賣笑婦ノ數卜壯丁及隊兵花柳病卜ノ關係

各府縣別人口壹萬ニ對スル娼妓、藝妓、酌婦ノ數ヲ壯丁及各部隊ノ花柳病患者率ニ比較スルニ大體ニ於テ接客業婦ノ數ノ多キ地方ハ花柳病患者率モ又多キカ如キモ全ク之ニ反スルモノモアリテ其關係判然タラス更ニ後日ノ調査ニ依リ觀察セムトス（左表及卷末第十六表第十七表參照）  
尙ホ娼妓ト壯丁ノ花柳病トノ關係ニ付テハ第二編第二章第二節群馬縣壯丁花柳病ト全國壯丁花柳病トノ比較ニ詳論ス參照セラルヘシ。

六二、大正<sub>自十三年</sub>至十二年十ヶ年間一ヶ年平均人口對一ヶ年平均娼妓、藝妓、酌婦數萬分比管區府縣別表

年未<sup>既</sup>保局ノ調査 人口ハ大正九年國勢調査ニ依ル  
軍兵ノ花柳病ハ大正八年ヨリ十二年ニ至ルモノ  
壯丁花柳病ハ大正元年ヨリ十二年ニ至ル平均ニ依ル  
陸

## 第二編 群馬縣ノ賣笑婦問題

群馬縣ハ吾國唯一ノ廢娼縣ニシテ花柳病豫防ヲ論スル者ノ常ニ引證スル處ナレハ同縣ノ賣笑婦ニ關スル歴史ヲ調査シ實狀ヲ述フルハ無益ノ業ニアラサルヘシ。

### 第一章 公娼設置ト廢止

#### 第一節 公娼設置

##### 一、縣布達ノ發布

群馬縣ニハ幕府時代ニハ娼妓ナク街道筋ノ宿屋等ニ飯盛リト稱スル婦女ヲ抱ヘ居タリシカ飯盛リハ賣淫ヲ爲スト云ヘルニヨリ其頃ノ八州ノ手ヲ以テ毎年二三回位之ヲ驅除シタリト、然ルニ維新後衛生問題漸次八ヶ間敷ナレルニ從ヒ斯ノ如キ者ヲ默許スルハ微毒蔓延ノ恐レアルヲ以テ之ヲ公許シテ花柳病ヲ防止スルヲ可トストノ理由ヨリシテ明治九年一月一日ヨリ娼妓及貸座敷營業ヲ免許シタリシト云フ即チ明治八年十一月三十日ニ時ノ熊谷縣權令楫取素彦氏ハ次ノ如キ布達ヲナシタリ、其當時ノ熊谷縣ハ上野國ノ一部ト武藏國ノ一部ヨリ成リ今ノ埼玉縣熊谷本庄深谷ハ熊谷縣ニ屬シ群馬縣ノ山田、新田、邑樂ノ三郡ハ栃木縣ニ屬セシモ明治九年八月熊谷縣ヲ群馬縣ト改メ熊谷、本庄、深谷等武藏國ニ

屬スル部分ハ埼玉縣ニ移シ山田、新田、邑樂郡等上野國ニ屬スル部分ハ栃木縣ヨリ分チ上野國ニ圓ヲ群馬縣トナシタリ。

##### 本縣第百六十六號

來ル明治九年一月一日ヨリ酌婦舞子ヲ廢止諸藝人立入座敷渡世ノ收稅ヲ免除シ娼妓並貸座敷渡世ヲ免許シ藝妓ノ制改正更ニ別記ノ通諸規則相定メ候條旨相心得每戸無洩可通達者也。

但去明治六年九月本縣第四十二號同七年六月第四十七號達書中此諸規則ニ抵觸ノ廉ハ渾テ改正候儀ト可相心得事。

明治八年十一月三十日 熊谷縣權令 楫取素彦

##### 二、娼妓並貸座敷渡世規則及徵毒檢查規則ノ發布

右ノ布達ト同時ニ取締規則トシテ總則、娼妓並貸座敷渡世規則、徵毒檢查概則ノ制定藝妓渡世規則ノ改正此四ツノ規則ヲ發布セラレタリ今各規則ニ付其ノ當時ヲ忍フタメ其要點ヲ述フレハ大體次ノ如キモナノリ。

##### 第一總則

總則ニ於テハ從來ノ酌婦舞子ヲ廢シ明治九年一月一日以後酌婦舞子ノ體裁ヲナシ客ニ接對スルコトヲ禁シ諸藝人立入座敷ハ免稅ヲ規定シタルコト。

貸座敷料理店其外へ藝妓ヲ招キ候儀ハ不苦ト雖モ午後十二時限リタルコト同時刻後賣藝相致候歟又ハ廻三宿泊相致候ニ於テハ藝妓規則第八條ニ照シ處分ニ可及事。

(藝妓規則第八條ニ「壹席金壹圓ヨリ不少五圓ヨリ不多過意金取立可申事トアリ)

料理茶屋旅館渡世ノ者方へ藝妓ヲ寄留同居ヲ禁シタルコト而シテ其當時ハ藝娼妓、貸座敷ノ許可ハ本支廳ノ雜稅掛ニ於テ取扱ヒ稅金及過意金ハ正副戸長ニ於テ取立テタリ。

此ニ最モ面白キハ一般人民ニ對シ賞金給與ノ途ヲ設ケ違反者密告ノ制ヲ敷キタルコトニシテ即チ一一般ノ人民ハ勿論同渡世ノ者タリトモ此規則違反ノ者ヲ認メ申出事實取糺相違ナキニ於テハ其事ノ輕重ヲ酌量シ相當ノ賞金可給與事」トアリ。

## 第二 娼妓並貸座敷渡世規則

本則ニ於テハ妓娼並貸座敷ノ免許、營業地域、稅金其他取締ニ關スル規定ヲナシアリ。

貸座敷營業ノ場所

第三條 娼妓並貸座敷渡世免許ノ場所ハ左ノ通タルヘキ事。

武藏國下深谷、本庄。

上野、國守り玉村、新町、倉賀野、板鼻、安中、板本、妙義、伊香保、一ノ宮。

合計二ヶ所

右ノ通リ即チ當時ニ於テ只今ノ群馬縣内ニ九ヶ所ヲ許可セリ。

免許及稅金

娼妓ハ支廳雜稅掛ヘ願出免許鑑札ヲ受ケ且ツ三日以内ニ其旨警察出張所ヘ届出ツヘク廢業ノトキモ同様ニシテ免許稅及月稅ハ左ノ通規定シアリ。

免許稅

一金貳圓 娼妓貸座敷渡世

一金壹圓 娼妓渡世

月 稅

一金四圓五十錢 娼妓貸座敷渡世

一金貳圓 娼妓ノ年齡

娼妓ハ滿十五歳以下ノ者ハ渡世不差許事トアリ(十五歳未満ノコトナラムカ?)現今ノ十八歳以上ニ比シ三歳ノ差アリ昔ハ弱年者ヲ許シタルモノト見ニ。

娼妓居住ノ場所

第七條ニ次ノ文句アリ「娼妓渡世ノ者前條免許場所ノ外ヘ住居ハ不相成最貸座敷渡世ノ者ト示談ノ

上寄留同居ハ不苦宿料ノ儀ハ相對ヲ以相當取極可致且都合ニ依リ甲ノ貸座敷ヨリ乙貸座敷へ寄留替モ勝手タルヘク決シテ甲ノ座敷主ニテ故障ケ間敷儀不相成座敷主ニ於テモ又都合ニ依リ同居相斷候儀モ自山タルヘキ事』トアリ之ニ依テ見レハ娼妓ハ免許地域内ニ住居スルヲ要スルモ必ラスシモ貸座敷内ニ居住スルノ要ナク從テ娼妓ト貸座敷業者トノ間ニ只今ノ様ニ前借關係ト云フモノ少カリシナラムカト思料セラル。兎モ角娼妓ノ自由ト云ヘルコトヲ餘程認メテ居リシモノナルトハ次リ規定ニ依ツテモ明カナリ。

#### 娼妓ノ自由ト稼場所

貸座敷ヘ寄留ノ娼妓其居家ノ外、客ノ招ニ應シ他ノ貸座敷ニ於テ渡世候トモ勝手タルヘク寄留ノ家ニテ差拒ミ候儀決シテ不相成事但客ノ誘引ニテ他行致候共貸座敷免許無之家へ宿泊ハ必不相成云々。現今ニ於テモ甲貸座敷ノ娼妓カ乙貸座敷ニ於テ一時接客ニ從事スルハ必スシモ差止メサル様ナルモ全然娼妓ノ自由ニハ一任シアラス此規定ヨリ見ルトキハ他ノ貸座敷ニ於テ客ニ接スルコトハ自由テアリ且ツ其事實モ可ナリ多カリシ様ニ思ハルルノミナラス又客ト一緒ニ他行スルコト迄モ許可アリシ様ナリ。同シ集娼制度遊廓制定ニアリテモ只今ノモノヨリハ餘程解放セラレタルモノ、如キ思ハル。

尙ホ自由解放ト云フコトニ就テハ第十七條ニ次ノ如キ規定アリ『貸座敷渡世ノ者ハ明治五年壬申十月藝。娼妓解放公布ノ御趣意厚相心得可申若藝娼妓ノ自由ヲ妨ケ束縛ノ所業有之ニ於テハ屹度處分ニ

及フヘキ事』斯様ナ嚴重ナル規定アリ其時代ニ於テハ藝娼妓ノ自由ヲ只今ヨリ以上ニ保護シタリシヲ知ルヘシ其レハ彼ノ有名ナル太政官布告ノ力與アリテ大ナリシニ依ルヘシト思ハルルヲ以テ参考ノタメ蛇足ナカラ之ヲ次ニ掲ケム。

#### 明治五年十月二日太政官第二九五號布告

一、人身ヲ賣買終身又ハ年限ヲ限リ其主人ノ好意ニ任セ虐使致候ハ人倫ニ背キ有マシキ事ニ付古來禁制ノ處從來年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ奉公住居相致其實賣買同様ノ所業ニ至リ以テノ外ノ事ニ付

自今可爲嚴禁事。

一、農工商ノ諸業習熟ノ爲メ弟子奉公相致候儀ハ勝手ニ候得共年限滿七年ニ過ク可カラサル事。但双方和談ヲ以テ更ニ期ヲ延ルハ勝手タルヘキ事。

一、平常ノ奉公人ハ一ヶ年宛タルヘシ最奉公取續候者ハ證文可相改事。

一、娼妓藝妓等年期奉公人一切解放可致右ニ付テノ貸借訴訟總テ不取上候事。

右之通被定候條屹度可相守事。

此太政官布告ニ基テ明治五年十月九日司法省第二十三號布達發布セラレタリ該布達ハ。

- 一、人身賣買ヲ禁シ娼妓藝妓雇入レノ資本金ハ贓品ト見做取リ上ケルコト。
- 二、娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失ヒ、牛馬ニ異ラス人間ヨリ牛馬ニ對シ物ノ返済ヲ求ムルノ理ナシ故ニ

從來娼妓藝妓へ借ス所ノ金銀並ニ賣掛滯金等ハ一切債ルヘカラサル事。

三、人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼藝妓ヲ爲サシムルハ人身賣買ニ付從前今後嚴重ノ可及處置事。

右ノ如キ嚴重ナル頗ル振ツタ處ノ布達アリ前ノ太政官布告ノ發布セラル、ニ至リシ原因ニ付テハ左ノ如キ有名ナル事實存在セリ。

明治五年六月南米祕露ノマルヤルス號ト云ヘル船カ支那人ノ鑛山人夫二百三十人ヲ乗セテ横濱ニ入港セリ其時丁度碇泊セル英國ノ軍艦「アイヤン・デューク」號ヘ支那人ノ一人逃ケ込み、自分ハ鑛山ノ人夫ニ備ハレタルモ船底ニ押込メラレテ一滴ノ水サヘモ與ヘス全ク奴隸扱ヲサレテ居ルト訴ヘタリ。時ノ英國公使ワットソン之ヲ我外務卿ニ申出テ副島種臣卿ハ其事ヲ聞キ時ノ神奈川縣令大江卓氏ヲ裁判判決ヲナシテ二百三十人ノ支那人ヲ支那政府ニ引渡セリ。然ルニ祕露ハ之ニ不服ヲ唱ヘテ特派全權公使ヲ送リ來タリ其結果仲裁裁判ニ附スルコトトナリ露西亞ノニコラス帝之レカ裁判ヲサレルコトトリテ祕露ノ敗訴トナリ日本ハ奴隸賣買禁止ニ就テ名聲ヲ上ケタリ然ルニ其頃デッケンスト云ヘル辯護士アリ曰ク日本ニテハ支那人ノ奴隸賣買ニ就テ誠ニ公平ナ判断ヲナシタルモノ日本人モ現ニ奴隸賣買ヲナシツ、アルハ果シテ如何。即チ遊廓ハ奴隸賣買ノ店ナリト叫ヒテ日本ニ痛棒ヲ加ヘ乃チ明治五年十月

### 二日太政官布告第二百九十五號ノ發布トナリタルナリ。

#### 衛生上ノ取締ニ關スル規定。

娼妓ハ別記徵毒検査概則ノ通徵毒検査ヲ受ケ療法等醫師ノ指圖ニ從ヒ病ヲ隱シテ客ニ接スルコトヲ禁シ又貸座敷ニ於テハ娼妓ノ名ヲ木札ニ記シ店頭ニ掲ケ置キ徵毒等ニテ休業中ハ取除クヘキコトヲ規定シタリ、而シテ徵毒検査等ノ事務ハ貸座敷業者中ヨリ二三名ノ月番ニテ行フコトヲ定ム、此ノ習慣ハ今尙ホ各府縣ニ遺風トシテ殘リ居ル様ニ思ハル。

#### 第三 徵毒検査概則

本規則ハ第一條ヨリ第十五條迄アリ検査場所、検査機關、検査定日、帶患者ノ處置、全治者及新規免許者ノ取扱、臨時検査、治療費ノ負擔、罰則等ヲ規定シアリ其後明治九年六月同年十一月、同十三年四月等數次改正シアルモ大ナル變更ヲ認メス此ニハ主トシテ最初ノ制定ニ就テ其要領ヲ述フヘシ。

#### 検査場所

貸座敷免許地毎ニ設置スルコトヲ規定シ其設備場所ハ新設ニ不及娼妓並貸座敷免許ノ者申合當分貸座敷中ノ一二室又ハ他ノ民家借受ケ候トモ不苦事」トアリ、又検査所ハ時トシテ治療中ノ者ノ假ニ養生所ニモ使用ノモノニ付新鮮ノ空氣流通ノ便アル家屋ヲ選定スヘシ」トアリ聊カ面白キ感アリ。

#### 検査機關

検査醫ハ當時ニ於テモ官體ヲ以テシタリ即チ縣廳ニ衛生局其他ニ數ヶ所ノ分局アリテ局長（醫師）及醫員設置セラル。

第一條ニ微毒検査場ハ第三條ニ掲タル娼妓免許ノ地毎ニ設置シ衛生局へ協議シ検査ノ定日同局本分局ノ所轄ニ從ヒ醫員ノ出張ヲ乞ヒ病毐ノ検査ヲ受クヘキモノトス。

第三條ニ微毒検査場設置ノ箇所及衛生本分局之所轄左ノ通タルヘシ。

武藏國 深谷、本庄

熊谷本局ノ所轄

上野國 玉村、倉賀野、新町

高崎分局ノ所轄

板鼻

安中、一ノ宮、坂本、妙義

富岡分局ノ所轄

伊香保

原町分局ノ所轄

之ニ依テ見レハ衛生本局及分局ニ醫員アリ、各其所轄ニ從ヒ検査定日ニ醫員出張シテ検査ヲ行ヒタルモノニシテ、本局ヲ縣廳ニ分局ハ支廳？ニアリタルモノナリ其ノ後明治九年五月衛生局ヲ掛ト改メ庶務ノ分掌トナル、又同年熊谷縣ヲ廢シテ群馬縣ヲ置カル、ニ當リ栃木縣ヨリ山田、新田邑樂ノ三郡ヲ移管シ木崎及川俣ヲ貸座敷營業地ニ追加セラル、ヤ之ヲ太田警察出張所衛生掛ノ所管トセラル。

検査定日及臨時検査

一週乃至十日毎ニ一回衛生局其他ノ都合ヲ以テ定ムルコトトナリ居リシモ明治十三年四月毎週一回検査スルコトニ改正セリ臨時検査ニ關シテハ「検査定日外ニ微毒ヲ受ケシ者ハ定日ヲ待タス最寄衛生本分局ノ内ヘ罷出検査施療ヲ乞フヘシ」トアリ其後明治十三年四月ノ改正ニ於テ其受持検査醫ノ自宅ニ就キ速ニ検査治療ヲ受クヘシトセリ。即チ罹患シタル娼妓ハ検査定日ヲ待タスシテ臨時ニ検査治療ヲ受クルノ途ヲ設ケアリ。

罹患者ノ處置

検査ノ結果傳染性ノ病氣アル者ハ直ニ休業ヲ命シ娼妓ノ氏名ヲ醫員ヨリ各貸場敷へ廣告（通知スルコトナルヘシ）シ各家ニ於テハ必ス店頭へ張（貼）出シ置キ客ニ接待ヲ止ムル證トナスヘシトアリ。

新規免許者及治癒者ノ取扱

新規ニ娼妓ノ免許ヲ受ケタル者及治療中ノ者治癒シタルトキハ検査定日ニ検査ヲ受ケテ稼業ニ就クコト但シ定日ヲ待タス検査ヲ受ケ證書ヲ受クルモ可ナル旨ノ規定アリ。

治療及治療費用ノ負擔。

治療ハ検査定日ニ出張シタル醫員ニ受ケルコトニ規定シアルヲ以テ一週乃至十日ニ一回ノ治療ナリ又娼妓中至難ノ病症ニ罹ル者アルトキハ本局へ通知シ局長出張速ニ協議治療ヲ受クルモノトス」トアリ而シテ治療藥劑ノ調合ハ最寄衛生本分局ニ於テ取扱フコトニ規定シテアルヨリ見レハ即チ所謂藥取

リニ行キシモノト思ハル。

八八

娼妓ノ薬價ハ一ヶ月毎ニ月番ノ者調査シ娼妓ヨリ取立一纏メニシテ所轄衛生局へ相納ムヘシ」トアリテ即チ治療費ハ娼妓ノ負擔ナリ。

#### 検査所ノ諸費

検査所ノ諸費藥取人夫ノ費用等ハ悉皆娼妓及貸座敷渡世ノ者申合相當割賦法ヲ設ケ積立置可辨償事トアリ故ニ之ハ相方ノ負擔ナル如ク思ハル。

#### 罰則

故意ニ検査ヲ免レタル者ハ鑑札ヲ取上ヶ検査済又ハ全治ノ證書ヲ受ケスシテ客ニ接シタルトキハ娼妓及貸座敷相方共二圓乃至五圓ノ過怠金處分又ハ場合ニ依リ鑑札ヲ取上ク尙ホ醫員出張後二十分以内ニ出頭セサル者ハ検査證ヲ取上ケ一週間休業ヲ命スト」後ニ改正追加セリ。

#### 其後ノ改正

其後明治九年六月廿三日、同年十一月十三日、同十二年十月廿四日、甲第百二十八號及同百二十九號同年十二月九日第百五十號同十三年四月廿六日甲第四十四號等ヲ以テ貸座敷娼妓渡世規則微毒検査規則其他ニ改正ヲ加ヘタリ其内主ナルモノハ明治九年八月熊谷縣ヲ群馬縣ト改メ現時ノ山田郡、新田郡、邑樂郡ヲ栃木縣ヨリ分チ合併シタル結果其年十一月邑樂郡ノ川俣村及新田郡木崎宿ヲ貸座敷免許ル要點ヲ摘錄スレハ次ノ如シ。

#### 出願許可手續

舊規則ニ於テハ本支廳ノ雜稅掛ニ願出テ鑑札ヲ受ケタルモ改正規則ニハ最寄警察署へ願出テ免許ヲ受クルコト及娼妓出願ハ尊族親及寄留同居スヘキ家ノ戸主連書ニテ願出ツヘキコト及娼妓ノ業ヲ營マサルヲ得サル事情ヲ詳細記載スヘキ事、本人可罷出事。

#### 娼妓ノ保護其他身柄ニ關スル規定

娼妓ノ保護其他身柄ニ關シテ左ノ數條ノ規定アルハ特ニ注意ヲスルニ足ル。

第十一條明治五年十月被仰出候年季解放ノ御趣意彌堅ク可相守事、第十三條娼妓他ノ貸座敷ヘ移轉シ或ハ廢業セムコトヲ乞フトキハ無故自由ヲ妨ケ申間敷事トアリ、又第三十三條ニハ現在ノ貸座敷ヲ去リ他ノ貸座敷ヘ移ラムトスルモ又ハ廢業スルモ娼妓ノ自由タルヘシ其戸主ニテ故ナク之ヲ拒ミ或ハ苛酷ノ取扱ヲ爲スニ於テハ最寄警察署又ハ分署へ可申出事」トアリ。

第十六條ニハ娼妓ヲシテ早ク正業ニ移轉セシムルニ注意シ從前物日等ノ弊習ヲ襲ヒ無益ノ出費ヲ促

シ候儀堅ク不相成候事。第三十條ニハ後日正業ニ轉スルノ妨トナル可キ大金ノ負債ヲナサ、ル様厚ク心掛奢侈ノ所爲有之間敷事。第三十一條ニ仲間交際又ハ物日等ノ爲メ無益ノ散財決シテ致間敷若シ強テ出費ヲ促ス者アラハ最寄警察署又ハ分署へ可申出事』即チ娼妓ノ自由ヲ保護シ奢侈ヲ戒メ正業ニ就カシメムコトニ努メ居レリ。

尙ホ舊規定ニ於テハ娼妓ハ貸座敷免許地域内ナレハ何レニ住居スルモ妨ケナク、貸座敷ハ稼業ノ場所ナリシモ、今度ハ娼妓渡世ノ者ハ必ス貸座敷渡世ノ者方ヘ寄留同居可致事ト規定サレ、又貸座敷渡世ノ者ハ店前ヘ貸座敷ト大書シタル木札ヲ可掲事』ト規定セラレタルハ面白キコトナリ。

#### 衛生ニ關スル規定

第十四條娼妓ノ健康清潔ニ注意シ黴毒ノ検査ヲ受クヘキ趣意篤ト告諭可致事。第十五條娼妓疾病アラハ何症ニ拘ラス速ニ醫員ノ診察ヲ受ケシムヘシ。黴毒其他傳染病ト認ムルトキハ別シテ注意可致事』以上ハ貸座敷ヘ命シタル事項ナリ。第二十九條自他ノ健康ヲ保ツタメ身體及臥具ハ最モ淨潔ヲ要ス可シ黴毒等ノ發スルヲ秘隱シ客ニ侍シ候儀不相成候事。第三十三條何ノ症ニ拘ハラス病氣シタルトキハ戸主ヘ申出醫員ノ診察可相受事。以上ハ娼妓ヘ命シタルモノナリ。即チ疾病ノ豫防ト治療ニ付テハ貸座敷主ト娼妓トノ雙方ニ義務ヲ負ハセ居レリ。

公娼設置ニ關シテハ右ニテ大體ヲ盡セリ而シテ公娼許可二件ヒ一面ニ於テハ明治九年三月九日賣淫

者取締規則ヲ新ニ發布シ密賣淫ヲ取締レリ該取締規則中ニ密賣淫者ノ貧困ニシテ自立シ能ハサル者ハ授產場ニ入レテ工藝ヲ授クルノ規定ヲ設ケアルハ極メテ適切ナル施設ノ如ク思ハル、モ如何ナル故ニヤ其後間モナク同年十二月二十八日ノ改正ニ於テ該條項ハ削除セラレタリ。或ハ當時ノ事情ニ適合セサリシカト思ハル、モ其時ノ事情ヲ知ルコト能ハサルハ甚タ遺憾ナリ其後明治十二年五月同十七年二月及同年四月等數回ノ改正アリ同年九月十三日ニ飲食店取締規則ヲ制定セリ之レ現行該規則ノ濫觴ナリ之等群馬縣ニ於ケル私娼ニ關シテハ別ニ稿ヲ改メテ述ヘシ。

#### 第二節 公娼廢止

##### 廢娼運動ノ發端、(廢娼運動第一期)

借廢娼運動ノ現レノ最初ハ明治十二年六月三日時ノ縣會議長宮崎有敬ノ建議ニシテ該建議ハ縣會ノ議決ニ依ルモノナリ貸座敷ニ於テ酒肴ヲ賣ルコト及藝妓ヲ招キ歌舞管絃セシムルヲ禁シ眞ニ性慾ヲ満足セシムルノ場所タラシメタシトノ意味ニシテ當時ノ建議書ハ次ノ如シ。

##### 貸座敷ノ業ヲ更ムルノ建議

夫レ貸座敷ノ業タルヤ男子ヲシテ娼妓ニ接シ其情慾ヲ遂ケシムルニ在ルノミ然リ而シテ目今其行ハル、處ヲ見ルニ之ヲ助クルニ藝妓ヲ以ラシ之ヲ娛マシムルニ酒宴ヲ以テシ唯人心ヲシテ益々淫蕩ニ赴

カシムルノミナラス以テ過多ノ金圓ヲ貪ル等皆人智ヲ愚ニシテ私利ヲ謀ルノ點ニ外ナラス故ニ賢人君子ニアラサルヨリハ一タヒ其毒ヲ被ラサルモノナク其甚シキニ至ツテヤ父子ノ親ミヲ疎シ夫婦ノ間ニ葛籐ヲ生シ朋友ノ交リニ信義ヲ失ヒ或ハ家産ヲ蕩盡シ或ハ放蕩懶惰ニ流レ竟ニハ國律ヲ犯ス等ノ弊害ヲナスコト普ネク衆庶ノ目撃スル處コシテ更ニ喋々ヲ俟サルナリ如此ハ皆業外ノ弊事ニシテ貸座敷ノ字面ヨリ見去レハ眞ニ不當ノコトナリ然ラハ則貸座敷タルモノハ能ク其本分ヲ守リ爾來娼妓ヲシテ來客ニ接シ其情慾ヲ達スルノミニ止メ酒肴ヲ賣リ藝妓ヲ呼ヒ歌舞管絃セシムルヲ禁シ區域ヲ判別シテ營業セシメ度奉存候如此セハ民ハ一時閑房ノ便ヲ得テ欲火ノ發動ヲ薄フシ無益ノ浪費ヲ減シ其事足リテ其用省ケ一舉兩全ヲ得ルノ策ナラム仰キ冀クハ斷然一令ヲ下シ嚴重御取締有之度此段本會ノ決議ヲ以テ建白候也。

明治十二年六月三日

群馬縣會議長 宮崎有敬

群馬縣令 指取素彦殿

此ノ建議ノ眞ノ目的ハ何如ナリシカ只今判然ト云フコト能ハサルモ群馬縣ノ廢娼運動ハ學者及キリスト敎信者ニ依テ唱ヘラレ彼ノ新島襄氏等ハ最モ力アリシトノコトナレハ眞面目ナルモノナリシト思ハル何シニシテモ妓樓ニ於テ酒肴ト藝妓ヲ禁スルト云フコトハ今日ニ於テモ花柳病豫防上歡迎スヘキコトト思ハル故ニ此建議ハ實ニ當ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス。

次テ翌明治十三年十二月三日縣會議員三十五名ノ連署ニ依リ廢娼ノ請願ヲナシタリ。

請願書

管下佐位郡伊與久村士族宮崎有敬以下三十四名（三十五名ノ誤リナラム）拜手書ヲ群馬縣令指取公閣下ニ上リ以テ請願ス某等謹テ按スルニ淫奔ノ風俗ヲ壞亂スルヤ素ヨリ茲ニ喋々スルヲ須スト雖モ中ニ就テ最モ世敎ニ患害ヲ來スモノハ娼妓ノ甚シキニ若クハナシ某等請フ其然ル以所ヲ辯明セン凡ソ天下ノ事物ニ於ケル陽ニ之ヲ禁スルモ尙ホ陰ニ之ヲ犯ス者アリ況シヤ公然其患害物ヲ明許シ陥罪ヲ設ケテ以テ人々ノ之ニ沈没スルニ任スニ於テオヤ抑モ我群馬縣管下ノ如キ娼妓貸座敷ノ最モ多キ隣縣未タ其比ヲ見サルナリ故ヲ以テ患害ヲ被ル所啻ニ一郡一村ニ止マラサルノミナラス延テ管下一般ノ人民ニ波及シ其底止スル處ヲ知ラサラムトス今其二三ヲ枚舉セン、曰倫理ヲ壞リ風俗ヲ亂ス、曰資產ヲ失ヒ生業ヲ墜ス曰少年子弟ヲシテ前途ノ方向ヲ誤ラシム、曰父子夫婦ヲシテ離散ノ禍ヲ招カシム、其他賊盜ノ念ヲ起スナリ、博奕ノ源ヲ開クナリ、凡ソ人間百般ノ惡事皆此娼妓貸座敷ニ根セサルハナシ、其然リ故ニ娼妓賦金ノ如キ之ヲ地方稅目中ニ列セス特ニ法度外ノモノト爲スハ賤醜ノ業固ヨリ貴重ナル附スル能ハス謹テ娼妓廢絶ノ議ヲ縣令閣下ニ請願ス冀クハ閣下某等カ微衷ヲ容レ速ニ此ノ患害物ヲ除去シ以テ管下人民カ將來ノ幸福ヲ招クコトヲ只其レ之ヲ廢スルト廢セサルトハ一二閣下ノ斷ト不斷ト

ニアリ某等懇請ノ至ニ堪ヘス頓首再拜。

(右 請願人)

(三十五名住所氏名連記)

群馬縣令 摄取素彦殿

右請願ニ對シテハ當時縣當局ハ極メテ重大ナル事件トシテ各方面關係職員ノ意見ヲ徵シ居レリ、當時主管ナリシト思ハル庶務課ノ二等屬増田ト云ヘル人ノ右請願書ニ附シタル意見書ト各係へ意見ヲ照會シタル全文トヲ掲ケテ参考ニ供セム。

娼妓ノ稼タル其醜業タル固ヨリ論ヲ俟サル也。故ニ文明ノ社會ニ在テハ或ハ之ヲ默許ニ置クモ宜シク公許スヘカラサルモノ、如シ、而シテ之ヲ今日ニ公許スルモノアルハ社會ノ進度猶此ニ及ハサルモノアレハナリ、然而シテ本文請願ニ對シ之ヲ遽ニ許否スルハ施治者ノ最モ難スル處ニシテ又之ヲ悠々ニ措キ尙醜ヲ世間ニ鬻キ毒ヲ社會ニ流サシムルモ亦施治者ノ慊トセサル所ナリ。然ラハ即チ早晚之力處分ヲ爲サ、ルヘカラス。故ニ先本願ニ對シテハ採可ノ指令ヲ示シ而其處分ニ方テハ固ヨリ一朝ニシテ能クスヘキモノニアラス、又俄カニ之カ處置ヲナスハ策ノ得タリトナスモノニアラス、故ニ今ヨリ三四ヶ年ノ期限ヲ定メ其方向ヲ示シ遂ニ正業ニ歸スヘキヲ令シ。該業者ヲシテ今ヨリ其心志正業ニ轉スヘキノ方ヲ辯知セシムルニ不若而其時期ニ至猶歸正セサルモノアラハ郷里ニ放逐スル等幾様ノ方法

アルヘキ儀ト存候本課管見如斯候也。

庶務課二等屬 増田 知

別紙請願書ニ付テハ大事件ノ處分ニ付該業存廢ノ可否及處分方ノ得失ハ充分御立論相成度趣長官ノ命ニ依リ此段小官ヨリ及通知候各位充分ノ御起按御添付相成度候也。

明治十四年三月廿四日 二等屬 増田 知

追テ各位御課署中ニモ御見込ノ方ハ御立策相成候モ不妨候事

此庶務課増田屬ノ照會ニ對シ横田、飯塚、阿部、大野、石川等ノ屬及警部並郡長十一名等ヨリ意見ヲ附シテアリテ其主題ハ大體一致セリ即チ娼妓營業ノ賤醜ナルハ論ヲ俟タサル處ニシテ道理上之ヲ禁スルト云フコトハ正當ナリ、サリトテ社會ノ現狀ヨリ今俄カニ之ヲ廢スト云フハ難事ニシテ強テ之ヲ、廢スルナレハ密實淫ノ弊ヲ増シ其取締リモ困難トナリ道徳ヲ破リ風俗ヲ亂リ微毒ヲ蔓延スルニ至ルヘシト歐米文明國ノ弊迄モ其例ニ引キ、而シテ當分此儘差置キ數年ノ後漸次廢止ニ至ル様誘導スヘシ等ノ意見ナリ。

又其當時楫取縣令ヨリ常置委員(只今ノ縣參事會員)ニ次ノ案ニ就テ諮詢シアリ。

案

一、貸座敷營業並ニ娼妓稼ノ者向十五ヶ月ヲ期シ廢業可申事。

一、一郡内協議行届十五ヶ月以内廢業施行可相成見込具狀アラハ聞届可申事。

一、廢業候上ハ別ニ手慣タル業體モ無之活計差間ユル者更ニ一廊ヲ設ケ他營業者ト混淆不申様營業可致事。

明治十四年二十六日

(桿取)

(森)

右ノ適當置委員ニ相示シ意見ヲ諮問ス

尙ホ右ノ諮問事項ノ外廢娼後ハ密賣淫ノ弊ヲ増スノ處アリ之等ノ弊害ヲ防クノ方法ヲ諮問セルコトハ當時ノ記録ニヨリ十分知ルコトヲ得ルモ此諮問ニ對シ同年九月十六日常置委員ヨリ答申アリタルモ、娼妓ハ有害無益ノモノナルカ故ニ廢スヘシト力説シ廢止後密賣淫防止ニ就テハ賣淫ハ德義上有リ得ヘカラサルコトナリトシ且ツ國法ノ許サ、ル所ナリ。然ルニ密カニ之ヲ爲ス者アルニ至ツテハ防禦スル能ハサル處ニシテ賭博ノ絕ヘサルカ如ク賣淫モ社會ヨリ驅除スルコト能ハサルモノナリト論シ之ニ顧慮スル處ナク廢娼ヲ斷行セヨ而シテ來ル弊害ハ其時ニ至リテ矯救スルノ方途ヲ設ケテ然ルヘシトシ遂ニ諮詢ノ核心ニ觸レ居ラサルヲ見ルソコテ桿取縣令ハ諮詢ノ主義ハ廢娼後ノ患害ヲ慮ルカ故ナリ德義上ト國法トヲ以テ云々スルハ理論ニ過キサルモノナリトシテ答申ヲ突キ返シタリ其レ故十月十四日第二回ノ答申ヲナシ其答申ニ於テモ廢止後ノ弊害ニ對スル良案ハ無之トシテ前同様ノ事ヲ繰リ返シアリ。テアル而シテ此第二回ノ答申ニ對シテハ書面上何等徵スルモノヲ發見セサルモ恐ラク口頭ヲ以テ

交渉アリタルモノカ十月十八日ニ更ニ第三回ノ答申ヲ提出セリ此答申ハ稍核心ニ觸レタリト思ハル、故参考ノ爲全文ヲ掲ケン。

廢娼妓ノ御諮詢ニ付奉答

廢娼妓ノ方法ニ付熟考仕候處御立案ノ第一項第二項ニハ毫モ間然スル處無之其第三項ニ至リ一遊廓ヲ置クノ一活路ヲ與ルハ施政上ヨリ其業ヲ惡ムモ其人ヲ憐マサル可ラサルノ御主意トハ存候得共更ニ一廓ヲ設ケテ營業スルヲ許ストノミ令スルモ其場所ヲ指定セス人民相對ノ協議ニ任スルトキハ活路ヲ與フルノ手段ハ却テ轉業ノ方向ヲ迷ハシムルノ媒介タルニ過キス然レトモ之ヲ指示スルモノトセハ其最寄郡村ノ苦情ヲ防クニ道ナキヲ以テ到底其實行ハ無覺東儀ト存候故ニ一層其方法ヲ進メ廢業後ハ本縣ノ原籍人ニ限り事實生活ニ差間ヘル者ニハ一ツノ就產場ヲ置キ一ヶ年間之ヲ救養スルモノトシ此期内ニモ勞働其食ヲ得ルニ足ルト認ル者ハ速ニ退場セシムルノ規則ヲ設ケ兼テ廢業ヲ名トシテ安リニ入場スルノ弊ト救恤ノ反テ怠惰ヲ增長スルノ害トヲ矯ムルニ於テハ前法ノ如ク名實相叶ハサルノ患モ無之真ニ救恤ノ御主意モ貫徹致スヘクト愚按仕候尤モ其支費至難ナリトノ御論モ可有之ト雖モ限リアル該營業者中右入場合格ナル者ノ僅々タルハ事實明白ナルニ依リ賦金幾分ヲ殻キ之ニ充ル者トセハ格別六ヶ敷コトニハ有之間敷ト存候而シテ善後ノ策モ併セテ上陳可仕筈ニ候ヘ共差當リ何等ノ考按モ無之因テハ將來賣淫ヲ防クニ何様ノ嚴法御施行相成候共毛頭異存ハ無之ニ就キ此段兼テ奉答仕候也。

明治十四年十月十八日

常置委員

此答申ニ依テ見レハ當時廢娼論ノ猛者連モ遂ニ廢娼後ノ弊害防止方法ニ關シテハ何等ノ考案モナカリシト見エ三回ノ答申トモ「良案無之ノミニテ」終テ居ル賣淫防止ノ方策ヤ難イ哉。

其後右請願ニ對シ明治十五年一月廿四日付ヲ以テ増田主任屬ヨリ起案シアリ。其要旨ハ一個人トシテノ請願ナルヲ以テ却下スルコト。別ニ縣會ノ決議ニ依リ建議書ヲ差出ス様傳ヘルコト、之レ廢娼ハ利害關係ヨリ必ラス苦情百出スヘキニ依リ縣下ノ輿論ノ歸スル處ヲ建論セシムル要アリ。廢止期限ヲ今後三ヶ年トス即チ明治十八年三月限リトスルコト、廢期前一ヶ年ハ無税トスルコト。管内二ヶ所ヲ限り尙ホ一定年間許可スルコト等ナリシカ之ニ對シテ楫取縣令ハ決裁ヲ與ヘス却テ次ノ如キ楫取縣令ノ附箋アリ。

小官出京ノ際主務省ノ意見ヲ問ヒ並ニ卿輔ニ向ツテ陳述スル處アリ最早別ニ經伺ヲ要セサル也各課ノ所見亦蒐聚セリ發令ノ立案ヲ草スヘシ。

明治十五年二月二十六日

(楫取)

右ノ附箋ニ依レハ最早已ニ主務省ニ於テモ廢娼ニ贊同シ居リシノト察セラル。

然ルニ其後三月二日主任屬ハ更ニ起案シテ以前ノ請願ハ一個人ノ資格ナルヲ以テ却下スルコト及別ニ縣會ヨリ建議セシムル様取計フコトヲ伺ヒ決裁ヲ得居レリ。其レヨリ遂ニ同年三月十七日縣會ノ

建議トナリテ現レ遊廓廢止ノ縣令トシテ現ハレタリ、而シテ前ノ請願書ハ却下ニ至ラス縣會ヨリ建議之趣モ有之候條追テ何分ノ處分ニ可及儀ト可心得事トナリタリ縣會ノ建議全文ハ次ノ通リナリ。

#### 娼妓廢絶ノ建議

謹テ按スルニ淫奔ノ風俗ヲ壞亂スルヤ素ヨリ茲ニ喋々スルヲ須スト雖モ中ニ就テ最モ世教ニ患害ヲ來スモノハ娼妓ノ酷タシキ(甚シキ?)ニ若クハナシ請フ其然ル所以ヲ辯明セン凡ソ天下ノ事物ニ於テ陽ニ之ヲ禁スルモ尙ホ陰ニ之ヲ犯ス者アリ況シヤ公然其患害物ヲ明許シ陷罪ヲ設ケテ以テ人々ノ之ニ沈沒スルニ任スニ於テヨヤ、抑モ我群馬縣管下ノ如キ娼妓貸座敷ノ最モ多キ隣縣未タ其比ヲ見サルナリ故ヲ以テ患者ノ被ムル所啻ニ一郡一村ニ止マラナルノミナラス延テ管下一般ノ人民ニ波及シ其底止(停止?)スル所ヲ知ラサラムトス今其二三ヲ枚舉セン。曰倫理ヲ壞リ風俗ヲ亂ス、曰資産ヲ失ヒ生業ヲ墜ス、曰少年子弟ヲシテ前途ノ方向ヲ誤ラシム、曰父子夫婦ヲシテ離散ノ禍ヲ招カシム、其他賊盜ノ念ヲ起スナリ博奕ノ源ヲ開クナリ、凡ソ人間百般ノ惡事皆此娼妓貸座敷ニ根セサルハナシ、其レ然リ故ニ娼妓賦金ノ如キ之ヲ地方稅目中ニ列セス特ニ法度外ノモノト爲スハ賤醜ノ業固ヨリ貴重ナル地方稅中ニ置クニ忍ヒサルヲ以テナリ、多年前陳ノ事件ニ於テ見ル所アリ一片ノ杞憂之ヲ默々ニ附スル能ハス此段縣會ノ決議ヲ以テ建議候也。

明治十五年三月十七日

郡馬縣會議長 宮崎 有敬

群馬縣令 樞取素彦殿

右ノ建議ニ依リ愈々貸座敷廢止ノ布達トナレリ即チ同年四月十日各課長ノ意見ヲ諮問シ衆議ヲ決シ六ヶ年間ト定メ同月十四日付ヲ以テ明治二十一年六月限り廢止ノ布達ヲナシタリ。布達文ハ左ノ如キモノナリ。

甲第二十七號

管下貸座敷營業及娼妓稼之儀今般詮議之次第モ有之候ニ付來ル明治廿一年六月限り廢止候條此旨布達候事

但シ貸座敷所在外ノ地ハ勿論從來所在地ト雖モ自今新ニ貸座敷開店ハ不相成候事

明治十五年四月十四日

群馬縣令 樞 取 素 彦

右布達ト同時ニ庶甲第三十二號ヲ以テ布達ノ旨ヲ内務卿へ上申シアリ。  
之ヨリ先初メノ廢止案ハ十五年三月廿日付起案シ其廢止期ヲ三ヶ年後ノ明治十八年六月トシ最後ノ一ヶ年ハ免稅トシ且ツ尙ホ正業ニ轉スル能ハサル者ハ近傍三里以内ノ人民ニ於テ故障無之場所ニ限り縣内二ヶ所ヲ限リ明治二十八年六月迄十ヶ年間遊廓ヲ開設スルコトヲ許可スルノ案ヲ起セシモ各課長等ノ意見反對アリ三ヶ年ノ猶豫ヲ與ヘ一ヶ年ノ免稅ヲナシ尙ホ且ツ十ヶ年間ニヶ所ノ遊廓ヲ許ス如キハ復々議員ノ過激ナル論ヲ起サムト云フ附箋アリ遂ニ廢案トナレリ、之ヲ見テモ當時議員カ如何ニ廢カニ優越シタルヲ見ル。

娼ヲ主張セシカラ知ルニ足ルヘク又廢娼建議ニ至リシ裏面ニ伏在セルモノハ何カ？前ニモ述ヘタルカ如ク主トシテ學者及新島襄等「クリスチヤン」一派ノ主唱策動ニ基因セルモノナリト云フ。

尙ホ縣會ノ建議アルヤ縣下ノ輿論ハ喧々囂々トシテ起リ甲論乙駁殊ニ十有一ヶ所ノ貸座敷營業者ハ出縣陳情スル等大ニ世論ヲ沸騰セシメタリ、縣會建議辯駁書廢娼反對建言等當時ノ書類中ヨリ私ノ見出シタルモノ四通アルモ何レモ極メテ長文ノモノニシテ文辭モ整ヒ論旨モ明確縣會ノ建議書ヨリハ遙カニ優越シタルヲ見ル。

伊香保ノ廢娼

如斯シテ免モ角縣下一般ノ貸座敷ハ明治二十一年六月限り廢止スルコトニ布達セラレ一先ツ鳴カ落著シタリ。然ルニ斯様ナコトヲシテ居ル一面ニハ伊香保ニ於ケル娼妓貸座敷ヲ速ニ廢止セントスルノ計劃カ起リツ、アリシナリ、其レハ主トシテ伊香保ノ溫泉宿營業者ノ希望ニシテ當時伊香保溫泉ハ漸次繁盛ヲ來シ知名ノ士ヤ外人等モ來ル様ニナリシヲ以テ貸座敷ヲ存置スルハ體而上ハ勿論却テ溫泉ノ繁榮ヲ妨クルモノナリトノ主張ナリシ如ク遂ニ明治十五年二月七日保香保村、木暮篤太郎ナル者ヨリカラ時ノ内務省衛生局長長與齊翁ニ伊香保溫泉場廢娼ノ建議書ヲ呈出セリ其文書ハ此ニ省略スルモ非常ニ長文ナルモノナリ其ノ結果長與齊翁ニ伊香保溫泉場廢娼ノ建議書ヲ呈出セリ其文書ハ此ニ省略スルモ非常ニ長文ナルモノナリ其ノ結果長與齊翁ニ伊香保溫泉場廢娼ノ建議書ヲ呈出セリ其文書ハ此ニ省略スルモ

見ル。

衛第八百十九號

一〇一

御管下西群馬郡伊香保村平民木暮篤太郎ヨリ伊香保温泉場廢娼之儀別紙寫之通建議書差出候右温泉場ノ妓樓ヲ廢スルハ衛生上及風俗上ニ於テ有益ノ儀ニ有之又温泉ノ行ハルル今日ニ至リテハ妓樓ヲ廢スルカタメニ土地之衰頽ヲ招クノ虞モ有之間敷旁以テ恰當之建議ト被存候併シ御縣ニ於テ何様之御見込ニ有之候哉承知致度此段及御照會候也。

明治十五年二月  
衛生局長 内務大書記官

長興專齋

群馬縣令 桝取素彥殿

之レヲ現今ノ様式ヨリスレハ別紙ノ通申出テ有之候條可然御取計相成度此段及照會候也ト 型式的ノ文句ヲ以テ來ルヘキモ此照會狀ニハ大分突込ンタ事ヲ記シアリ丁度此照會狀ノ來リントキハ尙ホ未タ縣下廢娼ノ布達ニ至ラス考究中ノ時ナリシヲ以テ係ノ屬官ヨリ「管内一般ニ廢娼御處分ノ御内議モ有之候義ニ付左ノ通御回答相成可然哉相伺候」ト云ヘル文面ヲ以テ二月廿日付起案シテ次ノ様ナル回答ヲナシアリ。

庶乙第五十四號

管下伊香保村平民小暮篤太郎ヨリ貴局へ差出候温泉場廢娼建議書寫添御照會ノ趣了承御意見ノ如ク温泉場ノ妓樓ヲ廢スルハ衛生上及風俗上ニ於テ有益ノ義ハ論ヲ俟タス温泉ノ行ハル、今日ニ至テハ妓營ム者不少遽然相廢シ候テハ糊口ニ困難シ自然和姦密賣等ノ弊害ヲ生スヘキ患モ有之候ニ付漸次正業ニ復サシムヘキ方法目下考案中ニ有之候此段及御答候也。

明治十五年二月 日

群馬縣令

衛生局長宛

右ノ起案ハ決裁トナリ居レリ。而シテ此案ニ一ツノ附箋ヲ附シアリテ其レハ縣令ノ認印ノアルニ月二十六日ノ日付ケテ次ノ如キコトヲ書シアリ。「該地ノ廢娼ハ一般處分ニ先タチ施設スル所アラント欲ス萬一營業者苦情アラン乎篤太郎外所謂大屋ナル者ニ擔任セシメ折服セシム可シ」トアリ。之レニ依レハ伊香保ノ廢娼ハ他ノ地ニ先タチテ行フト云フコトハ已ニ楫取縣令ノ胸中ニ決セラレタルモノナリ。其レハ同年四月十一日伊香保村地主十一名ヨリ提出セル廢娼意見書ニ見ルモ明カテアリマス。  
「豫テ廢娼ノ儀懇篤御說諭之趣ハ略貸座敷營業ノ者ヘモ申聞置各辨知致スト雖モ近來兩度ノ火災ニテ名々意外ノ負債モ有之速ニ轉業ノ目途モ不相立竟ニ今日ニ及候儀ノ處先般私共ヘ廢娼意見御尋問ニ付歸村ノ上一同集議致該業ノ者模様ヲ視察スルニ前顯ノ如ク加フルニ本年ハ不融通ニテ目下轉業ノ目途相立間敷ト推察致シ依テハ本年本月ヨリ來明治十六年六月三十日迄ノ猶豫ヲ與ヘ追々轉業ナサシメハ方向ヲ誤ルノ憂モナク自然正業ニ相復スヘシト奉存候且其期節ニ至リ何等苦情相申出間敷精々處辨

可致依之「同連署ヲ以及上申候也」之ニ依ルト豫テ縣當局ヨリ伊香保村ノ地主ニ意ヲ含メ貸座敷營業者ヲ説得セシメタルモノニシテ而シテ此地主ノ意見書ニ依リ翌日即チ四月十二日付ヲ以テ「其村貸座敷及娼妓稼之儀今般詮議之次第有之來ル十六年六月附廢止候其旨營業人共ヘ可相達候此旨相達候事但貸敷賦金ニ限り本月ヨリ廢期迄免除候事」ト伊香保村戸長役場へ達セラレ此ニ伊香保ハ最モ早ク廢娼ヲ斷行スルコトニナリシモノニシテ其ノ貸座敷設置後七年半ニシテ廢止シタリ。

其後伊香保村貸座敷營業者等ヨリ度々廢止延期ノ陳情アリ殊ニ十五年十二月ニハ貸座敷營業者連署ヲ以テ温泉地域外へ移轉營業スルコトノ計劃ヲ立テ温泉宿營業者ノ妨害トナラサラムコトヲ以ラシ明治二十一年迄延期ヲ請願シタリシカ却下セラレ其後更ニ翌十六年三月ニハ貸座敷營業者ノ外伊香保村民合計五十八名ノ連署ヲ以テ又請願ヲナセリ其連名中ニハ温泉宿營業者モ多數アリテ殊ニ長與衛生局長ヘ伊香保ノ廢娼ヲ建議シタル木暮篤太郎モ連名調印シ居レルハ滑稽ナル感アリ。

## 二、公娼廢止延期ノ布達（廢娼運動第二期）

以上ハ群馬縣ニ於ケル廢娼運動ノ第一期戰トモ云フヘキモノニテ其後暫クノ間ハ大ナル變化モナク明治十七年三月及同年四月並十九年四月ニ貸座敷娼妓取締規則ヲ改正セルモ特筆スヘキコトナク經過シタリ而シテ時ノ縣令楫取素彦氏ハ非常ニ評判ノヨキ人ナリシト云フ夫人ハ彼ノ吉田松陰先生ノ令妹ナリ楫取素彦氏ハ明治七年七月十九日熊谷縣權令ニ任セラレ明治九年八月廿一日熊谷縣ヲ群馬縣ニ改

メラル、ヤ引續キ群馬縣令ニ任セラレ明治十七年三月三十日元老院議官ニ任セラル、迄十ヶ年間勤續シタル人ニシテ而シテ十七年七月三十日佐藤與三ト云ヘル人楫取氏ノ後ヲ承ケテ本縣令ニ任セラレタリ、之レヨリ群馬縣ニ於ケル廢娼問題ニ關シ真ニ波瀾ヲ巻キ起シタルモノアリ。已ニ述ヘタル通り明治十四年四月十四日楫取縣令ニ依リ二十一年六月限り廢娼ノ布達ヲセラレタ爲メ一先ツ落著シタルモノナルカ佐藤知事ニナリテヨリ存娼ノ策士連ノ策動シタルモノナリヤ否ヤヲ知ラサルモ愈々來月限り廢止トナルヘキ明治二十一年五月廿六日ニナリ突然廢止延期ノ縣令ヲ發布セラレタリ。

## 群馬縣令第三十二號

明治十五年甲第二十七號布達娼妓貸座敷營業廢止ノ儀ハ詮議ノ次第有之當分ノ内延期ス

明治二十一年五月廿六日

群馬縣知事 佐 藤 與 三

廢娼論者ニ取リテハ此縣令ハ或ハ晴天ノ霹靂テアリシナラムカト思ハルノミナラス又隨分輿論ノ沸騰シタルモノアリ廿一年末ノ縣會ノ速記錄ヲ見ルモ其間ノ消息ハ大體窺フコトヲ得縣會ニ於テハ之カ對策トシテ同年十二月十一日決議ヲ以テ新ニ娼妓鑑札ヲ下附セサルコトヲ建議シタリ。

## 娼妓新規鑑札制止ノ建議

社會一般ノ道徳未タ進マサルニ於テハ縱令娼妓公許ノ名ヲ廢スルモ能ク賣淫鬻情ノ實ヲ矯ムルヲ得ス故ニ姑ラク從來ノ公許ニ任セテ他年自カラ絶滅スルヲ待ツニ如カスト今日直ニ廢娼スルノ不利ヲ說

クモノ、論據實ニ是ニ外ナラス然レトモ社會道德ノ進捗ヲ期シテ徒ニ其自滅ニ任スルノミニシテ而カモ之ニ向テ何ノ施爲スル所ナクンハ百年河清ヲ待ツノ感ナキヲ得ンヤ況ニヤ娼妓ノ公許ハ陰然世ノ賣淫ヲ獎勵スルノ傾向アルニ於テオヤ爲政家タル者實ニ思ハサル可ラス若シ今日ニ於テ廢娼尙早シトセハ責テハ之カ自滅ヲ促カスコトヲ希(企)圖セサル可ラス而シテ之ヲ促スノ策他ナシ自今以後娼妓新規出願者ニ向テ斷然鑑札ヲ下附セラレサルニアリ。果シテ然ルヲ得ハ數年ヲ待タスシテ娼妓廢絶ノ實効ヲ見シコト蓋シ難シトセサル也本會ノ決議ヲ以テ茲ニ建議ス閣下幸ニ容ル、所アレ。

明治廿一年十二月十一日

群馬縣會議長 湯淺治郎

群馬縣知事 佐藤與三殿

當時ノ縣會速記錄ニ依レハ建議案ハ議員二十三名ノ連署ニテ縣會ニ提出シ當日ノ出席議員ハ三十八名ニシテ採決ノ結果ハ可トスル者二十九名否トスル者九名而シテ速記中ノ反對者側ノ言論ヨリ察スルニ當日ハ反對派議員ノ缺席多キヲ見計ヒ建議案ヲ提出セルモノ、如ク反對派議員ハ本案ノ如キ重大ナルモノハ多數議員ノ出席セル時ニ附議セムコトヲ力説セルモ遂ニ容レラレス斯クシテ娼妓新規不許可ノ建議ハ成立シタルナリ。併シ此當時ニ於テハ娼妓ノ數ハ已ニ可ナリ減少シ明治十五年廢止縣令發布前ニハ縣下ノ娼妓カ約八百八十八人内外アリシモノ此建議當時ニハ三百二十二人即チ半數以下ニ減シテ居リタル實狀ナリ。然ルニ翌二十二年十一月廿六日ノ縣會ニ於テ更ニ娼妓貸座敷廢止ノ建議ヲ議決

シ廿八日付ヲ以テ建議書ヲ提出セリ。

甲第八號

#### 娼妓及貸座敷營業廢止ノ建議

既ニ明治十五年ニ於テ群馬縣會ハ娼妓及貸座敷營業ヲ廢止スルノ建議ヲ爲シ當時ノ縣令ハ上申ノ主意ニ遵ヒ六ヶ年ヲ以テ該營業ヲ廢止スヘキ旨ヲ布達シ以テ廢止ノ方案ヲ確定セリ此期限ハ明治二十二年ヲ以テ終ルヘキモノナリ之ト同時ニ該營業モ又廢止セラルヘキモノナリ然ルニ理事者ハ一片ノ布達ヲ發シ當分之カ延期ヲ爲セリ是昨年度ノ議會ニ於テ議論沸騰セル所以ニシテ結局之ヲ拒否セスト雖唯時宜ノ適スル所ニ從ヘルノミ大體ノ主趣ニ至テハ直ニ娼妓營業ニ對シ、新規鑑札差留ノ建議ヲ提出シタルヲ見テ知ルヘキナリ。娼妓貸座敷ノ弊害過惡ノ如キハ爰ニ論議スルヲ要セス唯我群馬縣ニ在テハ之ヲ存スルノ必要ナキノミナラス其廢止ヲ希望スルハ縣下一般ノ輿論ニシテ明治十五年以來本會カ取テ動カサル處ノ主趣モ又茲ニアリ是即チ本會カ娼妓貸座敷廢止ノ建議ヲ提出シ理事者ニ向テ斷然其廢止ヲ請フ所以ナリ。

右本會ノ決議ヲ以テ建議候也

明治二十二年十一月廿八日

群馬縣知事 佐藤與三殿

群馬縣會議長 湯淺治郎